

令和6年3月吉日

世田谷区立松丘小学校

校長 臼井 潤一 殿

委員長 前川 薫

委員 高良 有佳

吉田 滋

加藤 素樹

松丘小学校学校関係者評価委員会アンケート調査結果報告書

松丘小学校学校関係者評価委員会では、本年度実施いたしました「学校アンケート調査」集計結果をもとに、当委員会としての所見を別紙の通り作成しましたので、ご報告いたします。

学校におかれましては、この報告書を今後の学校運営にご活用いただきますことを願っております。また、地域で子どもたちの成長の一端を担う者として、学校・保護者・地域が一体となって努力を惜しまず、益々松丘小学校の児童のみなさんが健全に成長していくことを委員一同願っております。

別紙

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の学校教育活動について

- ・年度当初はコロナ禍が続いていたが、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した。コロナ前の教育活動に戻ったが、近年の教育を取り巻く環境の変化で、コロナ禍を機会に変わった活動もあることが伺える。そのような中、保護者アンケート5-(1)「本校は、ていねいに指導している。」で9割を超える肯定的回答をはじめ、保護者の皆さんから温かい評価をいただけたことは、委員としてもうれしいかぎりである。
- ・先生方には、コロナ禍で始まった欠席や出席停止中の児童に対してオンライン学習など工夫していただいて感謝している。通常の学習とオンライン学習、両方を合わせたハイブリッド学習、それぞれのよさを生かして教育活動を行い、松丘小学校の教育がより充実するように引き続きお力添えをいただきたい。また、児童アンケートの「学校生活は楽しい」「先生は児童の意欲を大切にしている」といった項目で8割以上の児童が肯定的に回答していることもうれしい限りである。「先生に注意されたことは、理解できる」については8割以上が肯定的な回答をしていることから、今後も子どもたちに寄り添って、子どもたちの実態に応じた指導の工夫を期待している。

2 保護者と地域、児童による評価

(1)回収率について

今年度もオンライン回答のみとなった。保護者回収率は66.8%と前年度の35.8%から31%上がったが、紙回収の令和3年度よりも15%近く低くなっている。データの精度を上げるために、引き続き回収率を上げる方法を検討していただきたい。

(1)重点項目について *保12-(1)~(8)

松丘小学校が重点目標に掲げる取組については、保護者地域ともに全ての項目で肯定的評価が8割を超えており、多くが9割を超えている。学校が重点的に取り組んでいることについて多くの方に賛同いただいていることが分かる。学校の考えを理解してくださっている方が多いので、その取組みの実際を評価してもらえるように今後も努力をしていってほしい。

(2)肯定的評価の低かった項目・内容について

①キャリア教育について *保4-(2)、児4-(1)

4割近い保護者と4割近い児童が否定的回答または分からないと回答している。児童アンケート4-(1)については、昨年度よりもポイントが下がっている。昨年度に引き続き、保護者・児童ともにまだまだ周知されていないように感じる。学校の取組みについて、具体

的な説明と授業の実際について学校からのお便りやホームページ等で情報発信をすべきである。児童に対しても、具体的な言葉を使って、自分自身のキャリア（将来）について考える働きかけをするべきである。しかし、児童アンケート4-(2)「目標をもち、その実現に向けて努力している」という質問項目は8割超が肯定的回答である。目標設定をして努力をするということに関しては、家庭や学校の取り組みがある程度児童に浸透しているのではないか。今後は、キャリアパスポートの活用についても保護者にしっかりと周知していく必要もあるのではないか。努力の継続を期待している。

②学び舎との連携について *保6-(3), 7-(2), 児4-(3), 6-(5)

学び舎の情報提供や交流について、保護者の肯定的回答は昨年度から10ポイント以上あがった。児童への学び舎の情報提供に関する質問に対しても肯定的回答は45%程度と増加し、交流に関しては倍以上増加した。中学生が職場体験で教室に入って時間を過ごしたことの効果の表れだと考え。アンケート実施後に行われた世田谷子ども駅伝において、優郷の学び舎チームが男女で好成績を残したことや、1,5年生が松丘幼稚園との交流を行ったと聞いている。活動をしっかりと保護者や地域に伝えていくことが必要である。全ての項目の中では肯定的回答の割合が低くなっているのも事実である。今後、交流活動が再開され、学び舎の連携が深まり、それを保護者・地域の目に触れることを期待している。

③家庭学習について *保6-(2), 児6-(3)

保護者の肯定的回答は昨年度より下がり6割程度である。児童は7割程度が肯定的回答をしており、前年度より10ポイント近く上がっている。保護者の質問項目に“自主的に”という言葉があり、肯定的に回答するにはハードルが高かったのではないか。児童は、塾での学習が7割近くいることから、宿題よりもそちらを重視している傾向があるかもしれない。成長段階で大人の声掛けの必要な児童は多くいるはずである。家庭や学校で前向きな声掛けをお願いしたい。学校でも自主学習を行っている児童がいる。児童がすすんで学習を行えるような宿題や取り組みを今後も検討して欲しい。

④先生との関係について *保5-(2), 児5-(2)

「子どものことを相談しやすい」という項目では、保護者の8割以上が肯定的回答をしており、及第点だと考える。しかし、児童アンケート5-(2)「先生たちに相談できる」では、3割の児童が否定的回答をしている。原因を分析し、早急に対応することをお願いする。

3 次年度に向けての委員会からの提言

コロナ禍が明け、蓄積した経験や知見によって、教育活動を工夫して実施されたと感じる。iPadを使った学習もTeamsやロイロノートといったアプリの活用を中心に定着しつつある。普段の授業の中でも“せたがや探究的な学び”の充実や“教育DX”などの新しい教育活動に挑戦して欲しい。松丘小学校においても、世田谷区が掲げる“せたがやキャリア・未来デザイン教育”の推進を期待している。

また、学校公開や保護者会、運動会、学習発表会と保護者の方が来校して、教育活動を見

る機会があることも、学校にとってとても良いことである。年1回の本アンケートだけでなく、学校公開や行事ごとの保護者アンケートにも真摯に耳を傾け、その都度、sz 教育活動を改善していくことも大切である。

校長先生のリーダーシップのもと、教職員が心を合わせ組織的に、また工夫をして取り組んでいることがアンケート結果にも反映されている。地域も保護者も学校の教育活動を肯定的に評価し、松丘小学校を応援していることが読み取れる。肯定的評価の低かった項目については、工夫・改善の余地があると考えます。ぜひ、今後もより一層よい学校になっていくよう努力されることを期待している。